

提出日 平成 26 年 3 月 26 日

平成25年度総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 (該当に○)	海外共同 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 共同研究 ・ 個人研究	
研究代表者氏名 所属職名	松本年史 家政学部 教授	
研究課題名	建築教育における「ヒューマンセキュリティー」概念導入の可能性について —生活の質の向上と住環境の改善に求められる新たな概念形成—	
研究分担者氏名	所属職名	役割分担
戸田 康男	家政学部・教授	住生活・住文化
研究期間	平成25年4月1日 ～ 平成26年3月31日	
海外共同研究を実施することになった経緯 (海外共同のみ)		
研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書		

研究実績の概要（1）

1) 文献・資料調査

- ① 「家政学」の概念研究と整理（平成25年4月から7月）（共同研究）
 - ・文献及び研究論文・資料を元に「家政学」の概念と分野別目標・課題について調査・研究を行った。
- ② 「ヒューマン・セキュリティ」分野の課題と「家政学」分野が果たす役割について研究（平成25年8月から12月）（共同研究）
 - ・国連や日本政府、研究機関や学会が取り組んで来た「ヒューマン・セキュリティ」の課題を整理し、「家政学」の分野が果たすべき役割について研究した。
- ③ 海外調査事例の整理と課題解決に向けた提案（平成25年9月から平成26年3月現在継続中）
 - ・モンゴルウランバートル郊外のゲル地区に定住する道を選んだ遊牧民の生活の変化に伴う課題を整理し、この課題解決が「ヒューマン・セキュリティ」の重要な事項であると位置づけることで、この問題の解決に果たすべき「家政学」の分野の役割を提案する。
 - ・東南アジアにおける代表的発展途上地域と考えられるタイ東北部の農村を対象に、その近代化に伴う課題を「ヒューマン・セキュリティ」の視点から捉え、その課題解決に果たすべき「家政学」の分野の役割を提案する。
 - ・以上の海外事例をもとに、生活の質の向上と住環境の改善に果たすべき方向を建築・デザイン教育を通して考える。（共同研究）

2) 海外調査

- ① モンゴル遊牧民のウランバートル郊外への定住化調査（平成25年8月6日から8月21日まで）
 - ・ウランバートル郊外のゲル地区の実態調査を行った。
 - ・ウランバートル郊外のゲル地区に対する政府公表資料、研究文献の調査を行った。
- ② ウランバートル郊外へゲル地区の定住化追加調査（平成26年3月17日から3月24日まで）
 - ・ウランバートル郊外のゲル地区の冬期における生活実態調査を行った。
- ③ タイ東北部農村地域の建築調査と集落調査（平成25年8月29日から9月12日まで）
 - ・チェンマイを中心にタイ東北部の伝統的建築スタイルの建築調査を行った。
 - ・タイソプラップ村の農村と住環境の調査を行った。
- ④ タイ東北部農村地域の建築調査と集落調査（平成26年2月24日から3月5日まで）
 - ・ランパンを中心に伝統的町並みと建築の追加建築調査を行った。
 - ・タイソプラップ村の近代化に伴うライフスタイルと住環境の変化を調査した。